

# 1. 調査報告概要表

## 【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年10月27日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2772401291
法人名	医療法人 美盛会
事業所名	グループホームくすのき
所在地	枚方市養父東町18番30号 (電話) 072-836-8668
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 10月 10日

### 【情報提供票より】(平成 20年 9月 1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 6月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.6人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

#### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,500円	その他の経費(日額)	368円/1日
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,925円		

#### (4) 利用者の概要 (平成 20年 9月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	1名	要介護2	2名
要介護3	4名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 86.4歳	最低 73歳	最高 98歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤病院、美樟クリニック、藤川歯科医院
---------	---------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に定着した医療法人が運営するグループホームであり、介護老人保健施設とクリニックが併設されています。『「ゆっくり」地域住民と「いっしょ」に交流をもち安楽な生活ができるよう支援します』を理念とし、利用者が地域で安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。利用者は医療連携している併設クリニックの医療及びホームと兼務している老人保健施設の看護師長の必要な看護支援を受けながら生活しています。職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、言葉かけや態度は明るくやさしい雰囲気です。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) ここ一年、法人の体制変更や管理者の交替があり、前回の外部評価訪問で示された事項についての改善はあまり進んでいませんが、人事異動をはじめ法人の強力なバックアップで新体制も軌道に乗りつつあり、今後に期待がかかります。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、まず管理者が案を作り、全職員と相談しながら完成させ、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は地域包括支援センター職員、自治会長、地域福祉委員会部会長、家族の参加のもとで、2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの運営状況や利用者の生活ぶり、行事予定などを説明し、地域の行事への参加や住民対象の認知症講演会の開催等について意見を交わし、相互の理解を深めています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族との面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告をしています。管理者のコメントや利用者の暮らしぶりを紹介した「くすのき便り」を発行し、家族に送付しています。預かり金については出納帳を作成し、収支と残金について定期的に家族へ報告し確認を得ています。家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応するとともに、ご意見箱を設置し、家族の意見を表せる機会を設けています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の文化祭や盆踊り大会に参加して地元住民との交流をし、保育園児や小中学生との交流もしています。お話や歌、マジックなどのボランティアも受け入れています。地域の廃品回収に協力しています。

## 2. 調 査 報 告 書

(   部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『「ゆっくり」地域住民と「いっしょ」に交流をもち安楽な生活ができるよう支援します』を理念とし、利用者が地域で安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を明文化し掲示しています。職員が全員参加する月例の「ミーティング」や日々の業務等を通じて理念を共有し、理念に沿った介護サービスの実践に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域の文化祭や盆踊り大会に参加して地元住民との交流を行い、保育園児や小中学生との交流もしています。お話や歌、マジックなどのボランティアも受け入れています。地域の廃品回収に協力しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ここ一年、法人の体制変更や管理者の交替があり、前回の外部評価訪問で示された事項についての改善はあまり進んでいませんが、法人の強力なバックアップで新体制も軌道に乗りつつあり、今後に期待がかかります。自己評価は、まず管理者が案を作り、全職員と相談しながら完成させ、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員、自治会長、地域福祉委員会部会長、家族の参加のもとで、2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの運営状況や利用者の生活ぶり、行事予定などを説明し、地域の行事への参加や住民対象の認知症講演会の開催等について意見を交わし、相互の理解を深めています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員とは情報交換を行い、サービスの向上に取り組んでいます。市が主催するグループホーム事業者連絡会にも出席しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告をしています。管理者のコメントや利用者の暮らしぶりを紹介した「くすのき便り」を発行し、家族に送付しています。預かり金については出納帳を作成し、収支と残金について定期的に家族へ報告し確認を得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応するとともに、ご意見箱を設置し、家族の意見を表せる機会を設けています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	体制の変更にあたり、同一法人の老健より管理者をはじめ複数の職員を受け入れ、従来からのベテラン職員との連携により、利用者への影響を最小限に抑えることができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は職員の研修に積極的で、年間計画に従い研修に参加しています。月2回「緊急時対応」についてなど法人内研修を行い、ホームの職員も参加しています。外部研修についても「認知症」や「感染症」を中心に参加しています。また伝達研修は月例ミーティングの場で実施しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催するグループホーム事業者連絡会に参加すると共に、同系列の3グループホーム間でも情報交換を実施するべく準備をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の職員の家庭訪問、利用者や家族のホーム見学等を通じて馴染みの関係を作り、入居後も職員が他の利用者との馴染みの関係づくりに気を配り、家族や本人の不安を取り除き安心して入居しサービスを受けられるよう取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。医療関係に勤めていた利用者は周囲の利用者の健康に気遣う等、利用者の得意分野で、家事や行事の機会を通して学び支えあう関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のアセスメントについては、心身の状況に重きをおいて記載していますが、毎日の生活を通じて得られる利用者の生活歴や暮らし方の意向などについては、新たな気付きの記録と見直し・整理が十分でなく、利用者一人ひとりの暮らしや楽しみ方の希望が十分には把握できていない状況です。	○	毎日の生活を通じて得られる利用者の生活歴や暮らし方の意向など、新たな気付きを記録し、また見直し・整理を行い、日々のケアや暮らし、楽しみに生かしていくことが求められます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現在の暮らしや、心身の状況を把握し、医師、看護師の意見、利用者と家族の意向・願いを反映した介護計画を作成し、家族の同意も得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には3ヶ月毎に、状態の変化がある時はその都度見直しをしています。定例のミーティングや3ヶ月毎のケース検討会議でモニタリング結果を評価し、介護計画の見直しにつなげています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者は医療連携している併設クリニックの医師及びホームと兼務している老健の看護師長の必要な看護支援を受けながら生活しています。地域で認知症介護の勉強会を実施する計画があります。地域のボランティアからの支援も受けています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療科目によっては入居以前の、かかりつけ医療機関から引き続き医療を受けている利用者があり、必要に応じ通院介助をしています。協力病院と連携し、夜間や急変時の対応についての体制整備も整っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	既に看取りの実績がありますが、利用者・家族には「看取りに関する指針」を作成して説明を行い、同意書を取り交わしています。重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から利用者や家族の意向を聞き、状況の変化とともに、利用者と家族、医師、ホームとの話し合いを行い意向の確認を続けていく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。個人情報の取り扱いについても職員に書面で周知徹底しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。利用者のペースに合わせて、朝食の時間や外出願望に柔軟な対応をしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の老健から取り寄せた調理済みの食材を使い、盛り付けや後片付けの作業に利用者も参加しています。他の職員は食事休憩に入るため、一人の職員のみが手持ちの弁当を食べながら、利用者の食事と服薬のサポートをしています。しかし一人の職員だけでは無理があり、会話も弾まず、楽しい雰囲気の食事風景にはなっていません。職員は1日1回も利用者と同じ食事を食べていない状況です。	○	食事の時間をより楽しくし、利用者がしっかりと食事サポートを受けられるよう、職員が利用者と同じ場所で1日1食以上同じものを食べながら、複数の職員により対応することが求められます。複数の職員は必要ですが、同じものを食べるのは1日1回一人でもいいのですから、少し表現を変える必要がありそうです。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週2日に固定し、利用者は通常週2回の入浴を楽しんでいます。	○	利用者が週に3回はゆっくりと寛いで入浴できるよう、今後は体制整備と雰囲気作りが求められます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。利用者はそれぞれお楽しみ会や行事、外出を楽しみ、テレビのスポーツ観戦や毎日の晩酌で気晴らしをしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買い物のほか、季節の花見、外食会、健康飲料水の工場見学に出かける支援をしています。近隣の行きつけの散髪屋に行くのを楽しみにしている利用者もいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い車道に面しているということで玄関ドアに鍵がかかっています。ホームには庭がなく、利用者はいつも建物の中だけで過ごすことになっています。	○	鍵をかけないケアについての議論と理解を深め、日中の時間帯は鍵をかけず見守りによる対応ができるよう努力することが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを作成しています。避難訓練は年2回実施し、うち1回は消防署の指導の下で実施しています。食料と水の備蓄については、ホーム分も年内に併設の老健に確保することで準備中ですが、さらにホーム内にも備蓄を準備することが望まれます。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録されていますが、水分摂取量の管理が必要な利用者は現在いない状況です。栄養バランスについては、併設老健の管理栄養士からアドバイスを受けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関外まわりには植木や季節の花が植えられ、内側には手作り作品、絵画が飾られ訪ねやすい雰囲気になっています。明るく、ゆったりとしたリビング兼ダイニングルームの食卓テーブルには生け花が飾られ、ソファがあり、廊下側には椅子が並べられていて、2階の談話スペースとともに寛げる居場所になっています。壁には行事写真や手作り作品が飾られていて、家庭的で落ち着いた雰囲気になっていますが、できればもう少し季節感の演出の工夫をされてはいかがでしょうか。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者が茶道具の入った茶箆筒、アンティークな道具箆筒、整理箆筒、テーブルと椅子、飾り棚、装飾品等使い慣れた馴染みの古い物や生活用品を持ち込み、安心して過ごせる居場所となっています。仏壇と遺影を持ち込んで、法事をした利用者もいます。ただ、一部の居室で持ち込みの家具等がほとんどなく、もの淋しい居室もあるため、今後は利用者や家族と相談しながら、支援していくことが望まれます。</p>		